

出張報告届

令和5年 10月 16日

吹田市議会議長様

会派名 自民党吹田市議団

代表者氏名 泉井 智弘

出張者氏名 白石 透

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	八戸公会堂・公会堂文化ホール(青森県八戸市)
期間	令和5年10月11日から10月13日まで3日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	第85回全国都市問題会議に出席。 令和5年10月12日9時30分開会のため、令和5年10月11日前泊するものです。



第 85 回全国都市問題会議 報告書

文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

日程・令和 5 年 10 月 1 2 (木)・1 3 日 (金)

会場・八戸市公会堂・公会堂文化ホール

講演者・パネリスト 日比野 克彦 東京芸術大学長

熊谷 雄一 八戸市長

吉川 由美 文化事業ディレクター

花岡 利夫 東御市長

鈴木 秀樹 (株)鹿島アントラーズ副社長

小林 真理 東京大学 教授

頼重 秀一 沼津市長

山崎 善也 綾部市長

第 1 日目は、日比野氏の基調講演の後、八戸市長の主報告が行われた。人口約 22 万人の中核市である八戸市は全国有数の水産都市として、また東北有数の工業都市、国際物流拠点都市として着実に発展を遂げてきた。しかしながら、旧市街地の商業機能が衰退する現象は多

くの地方都市が抱える課題であるにとらえ、2011年、新たな交流と創造の拠点として開館した八戸ポータルミュージアム“はっち”を地域資源の魅力を創出・発信し、文化芸術、産業、観光、市民活動、子育て支援といった各施策を一体にした施設としてオープンした。本会議の議題解説で紹介されている、「酔っ払いに愛を〜横丁オンリーユーシアター」も、“はっち”が取り組んだアートプロジェクトの1つであり、かつて多くの人が帰属していた地縁や社縁による中間的な組織や集団が十分に用意されていないことから、様々な社会問題が生じていることが指摘される昨今にあって、人々の関心やテーマに基づく顔の見えるリアルな人と人との関係づくりの重要性が相対的に高まっているといえる。

居場所と出番をつくること。多様化するライフスタイルのさまざまな段階において、仕事や家庭と別のサードプレイスで、社会と関われる、さらにいえば、まちづくりに関与することができる、多様な選択肢がある地域社会づくりを目指していくことが必要であり、文化・スポーツはそのためのシーズを大いに提供してくれる。たとえ定住人口が減ったとしても、活動を通して地域づくりに主体的に関わる人、すなわち地域づくりの当事者が増えれば、まちは豊かになるはず

である。

以上のような講演を聞いた。

2日目のパネルディスカッションにおいては観光、地域資源、ものづくり、食文化、祭礼と芸能、風俗、自然、子育て、市民活動、シアター、スタジオ、アーティスト・イン・レジデンス、コミュニティFMなど多様な情報のショーケースでありつつ、市民を主体とするさまざまな活動の拠点である“はっち”から、高地トレーニング施設を持つ東御市、鹿島アントラーズがきっかけとなり、まちづくりに多大な影響をおよぼした経緯、などのディスカッションを聞いた。

この吹田市についても文化芸術・スポーツを通じたまちづくりの主役は市民であることが意識されなくてはならず、行政や民間の経済団体が担う役割が大きいことは疑う余地もない。主体はあくまでも市民であるというべきであり、吹田市内の地域間の歴史もそれぞれに特性があることを十分に考慮して市政運営すべきと認識させられた。